

# わかば 6月号

学校教育目標 学びを **愉しく** 人と **仲よく** 心も身体も **元気よく**

～創立当時の思いを受け継ぎ、世界一の日本人学校を目指します～

日本国文部科学省認定校 シカゴ日本人学校 校長 長谷川 雄一



## 自然は人の心を育て、行事は子どもを成長させます

あめんぼう、紫陽花（アジサイ）、うつぼぐさ、くちなし、雨蛙（アマガエル）、  
蛍、百合、菖蒲、かたつむり、新生姜、すずき、さくらんぼ、びわ、みょうが、若  
鮎、鱧（はも）、らっきょう、衣がえ、田植え、夏至、梅雨、梅雨冷え、空梅雨、梅  
雨晴れ、等々

これらの言葉は、日本では6月の季語として使用される言葉です。日本人は豊かな  
季節の変化の中で、自然の万物にやさしい目を向け、そして季節の変わり目にあた  
り、相手の身体を気づかう心情を育んできました。厳しい冬を乗り越えて、春爛漫か  
らまばゆい夏に向かい、子どもたちの心も身体も成長していきます。授業もおちつい  
た雰囲気生まれてきました。まもなく運動会も開催されます。行事は一人ひとりの  
心を豊かにします。先生方も子どもたちも真剣さが増してきました。何を学び、そ  
こからどう成長していくか、温かい声援をお願いします。

## 避難訓練 トルネード

5月7日（火）トルネード訓練を実施しました。幼稚園児，児童・生徒全員が小体育館に避難して，素早くおちついた行動ができました。アメリカでは日常的にテレビでも情報が流れており，他人事としないように話をしました。

10数年前，国内の勤務校が竜巻に見舞われ，大きな被害（人的被害は0）ができました。関東地方でも極めて珍しい竜巻ですが，その威力に驚きました。新聞の三面記事にも大きく掲載されました。中高生が使用するサイズの大きなアルミ製のサッカーゴールが遠くへ吹き飛ばされグニャグニャにへし折れており，校庭中央にあった大きなトチノキが吹き飛ばされたため，その実が校舎に降り注ぎ窓ガラスが数十枚にわたり被害を受けました。夜間であったため，人的な被害はありませんでしたが，日本国内ではトルネード警報はないので，日中の授業中であれば，深刻な人的被害を受けたらと思うわれます。余談ですが，後日数キロ離れた個人住宅で被害に遭われた方とお話をする機会がありました。すると，そのご家庭ではさらに十年前に同様な被害に遭っていたことがわかりました。発生しやすい場所，コースがあるようです。

## 6年生からのインタビュー

小学部6年生の国語の授業でインタビューを受けました。昨年は1年生から受けたこともあり，本校の子どもたちが言葉を通じて，人間関係を築く能力が高いことを感じます。本校は現在，海外子女教育振興財団からの研究委嘱を受け，探究的な学習に取り組んでいますが，子どもたちのインタビューアーぶりは，たいしたものです。6年生は運動会でも係活動等でのリーダーシップが見られ，日々，小学部最高学年としての自覚を感じます。

## 中学部修学旅行 ～ 思い出深い、よい旅となりました ～

5月8日（水）～10日（金）2泊3日で中学3年生はボストンへの修学旅行を実施しました。1日目のフリーダムトレイル（アメリカ独立革命の舞台となった建国の足跡を辿る道）約4キロの道のりは一部の行程で雨に降られましたが、2日目のプリマス（メイフラワー号到着地）・ボストン美術館から3日目（レキシントン・ハーバード大学）にかけてはお天気にも恵まれ、アメリカ建国の歴史を学ぶよい探究学習の機会となりました。

中学部3年生は10名ですが、みな仲が良く、いっしょに食事をし、おそろいのトレーナーやロブスターのキーホルダーを身につけるなど、微笑ましい光景でした。

この行事が過ぎると、中学部3年生にとっては、進路の選択が控えています。現地の高校へ進学する生徒との別れ、帰国にあたり、どこを受験するか、入れるのか、難しい判断が迫られます。そうした意味でも、苦難のアメリカ建国の歴史を学ぶことは、たいへん有意義でした。10名の今後の飛躍を願っています。





本場ボストンのロブスターとクラムチャウダーを頂きました





プリマス（メイフラワー号到着地）で当時の暮らしを学ぶ



アメリカの建国の歴史との出逢い 多くの学びがありました



## 学校生活アンケート ～ 毎月実施へ ～

今年度から毎月の月初めに学校生活アンケートをすべての児童・生徒に行っています。これは国内校でのいわゆるいじめを防止するための調査です。本校では従来年に2回程度行われていたようですが、国内校での趣旨はいじめを防止するための調査であり、児童・生徒、教員の意識づけのために行われるものです。

本校では国内校とは状況が異なりますが、いじめを含む、生活全般での何か困っていませんかとの簡単なアンケート形式になっています。担任の先生が確認し、小学部主任、生徒指導主任らが再度確認をした上で、校長が最終的に確認する流れです。子どもですから、何か書かなければと様々な気になる点を書く子どももいますが、担任の先生が機会を見てよく話を聞き、解決に向かうよう指導・支援をしています。気になる場合は各家庭へも連絡いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。いじめの対応は、早期発見・早期対応が重要とされています。

## 校内安全点検 ～ 毎月実施へ ～

同様に、校内の安全点検も今年度から、月1回実施しています。毎月18日前後に全教員で各所を点検・報告しています。こちら、アメリカの方からは、こんな毎月やるのですか？との声もありますが、日本の社会であたりまえに行われている日常点検、定期点検、臨時点検・緊急点検が、日本の製造やサービス、運輸等世界に誇れる信頼を得ることにつながりました。学校は安全があたりまえですが、そのためにも、あたりまえのことをあたりまえに行うようにしました。

## 保護者 学校評価 ～ 7月と1月を予定 ～

従来実施していた学校評価 保護者用アンケート調査ですが、7月と1月に実施を予定しています。

## 小学部スポーツテスト ～ 縦割りで実施しました ～

5月14日(火) 5・6時間目を使い、小学部全学年がスポーツテストを行いました。当日は縦割り集団で動き、上級生が下級生の移動を引率したり、応援したりと、単にスポーツテストを測定するだけではなく、微笑ましく有意義な授業でした。国内平均値を大きく上回る児童もいました。



## SEMI SEMI SEMI 17年ゼミ

今年度はセミの大量発生年の年です。2007年に研究し、タイムカプセルに残した児童がいました。酒井くんは今、27才になっているはずです。どこでどんな仕事をしているのでしょうか。



## 運動会に向けて スローガンは

「 完全燃“笑” ～紅白ともに輝く笑顔溢れる運動会～ 」

子どもたちは練習や準備にがんばっています。応援よろしく願いいたします。各学年や学部による種目も熱心に練習し、高学年の児童生徒は式典の司会進行や運営にも力を入れています。こうした家族的な雰囲気は本校の児童生徒のあたたかさ、やさしさ、笑顔につながるのでしょうか。

それだけでなく、ラジオ体操もしっかりと練習しています。ラジオ体操は日本が生み出した世界最高の準備運動だと思います。短い時間内のテンポのよい動きの中に人体の関節や筋肉、内臓等、たいへんよく研究されています。通常は保護者の方も先生方もわが子や勤務校の運動会しか行きませんので、なかなか気がつかないことですが、様々な学校を訪問すると、ラジオ体操を見れば、その学校の先生の考え方や取り組み方がよく見えます。そして、それが日々の授業や生活規律にまでつながり、学力の差となり表れます。組体操やダンスなど目立ち、外部受け、子ども受けする種目ばかりに力を入れる指導者もいますが、それは一時のパフォーマンスです。組体操のピラミッドで7段だの8段が日本最高だのと危険性を無視して行われた時代もありました。一番下の土台となる児童生徒はほぼ9年間土台で何を学んだのでしょうか。

きちんとラジオ体操を指導された子はいくつになっても姿勢がよく、きらりと光るラジオ体操ができます。一生の宝物になります。

野球もサッカーも陸上も，強豪校と言われる学校は，準備運動に手を抜きません。日本国内校でも今は簡単な準備運動で運動会を行う学校もあります。「シカゴから来た子は，ラジオ体操がしっかりとできる」

つまりは学習も生活もしっかりとできる子なのです。

なお，当日は周辺住民の方々に迷惑とならないよう，道路への駐車はできるだけお控えください。

## 英語授業参観

いかがでしたでしょうか。アメリカの先生方による授業は，日本の英語の授業とは一味ちがいます。これで多くの児童生徒が英語を学ぶ楽しさを知ることになります。次回はハロウィン時の授業公開になります。

## 羽賀龍之介選手が来校します

6月20日（木）**オリンピックメダリスト**の柔道 羽賀龍之介さんが来校します。保護者の方も参観可能です。

場所 本校 大体育館

日時 6月20日（木）1年生から5年生の参加 2時間目

6年生から中学3年生の参加 3時間目

それぞれ，9時50分，10時55分までに児童生徒が入場しますので，その時間前までにお入りください。

なおJCCCから6月16日のジャパンフェスティバルで、日本のチンドン屋さん「べんてんや」が出るので、ぜひご参観くださいとの連絡もいただいております。詳しくはJCCCジャパンフェスティバルのサイトでご確認ください。

## サマースクール

今年度は6月20日（木）から7月17日（水）の期間となります。現地校に通う子どもたちとの貴重な交流の機会になるでしょう。1年生と2年生、6年生に1名の計3名が本校に通います。互いに学び合う点が多いと思います。

## めんどくさい、つかれた、やばい、いつもの

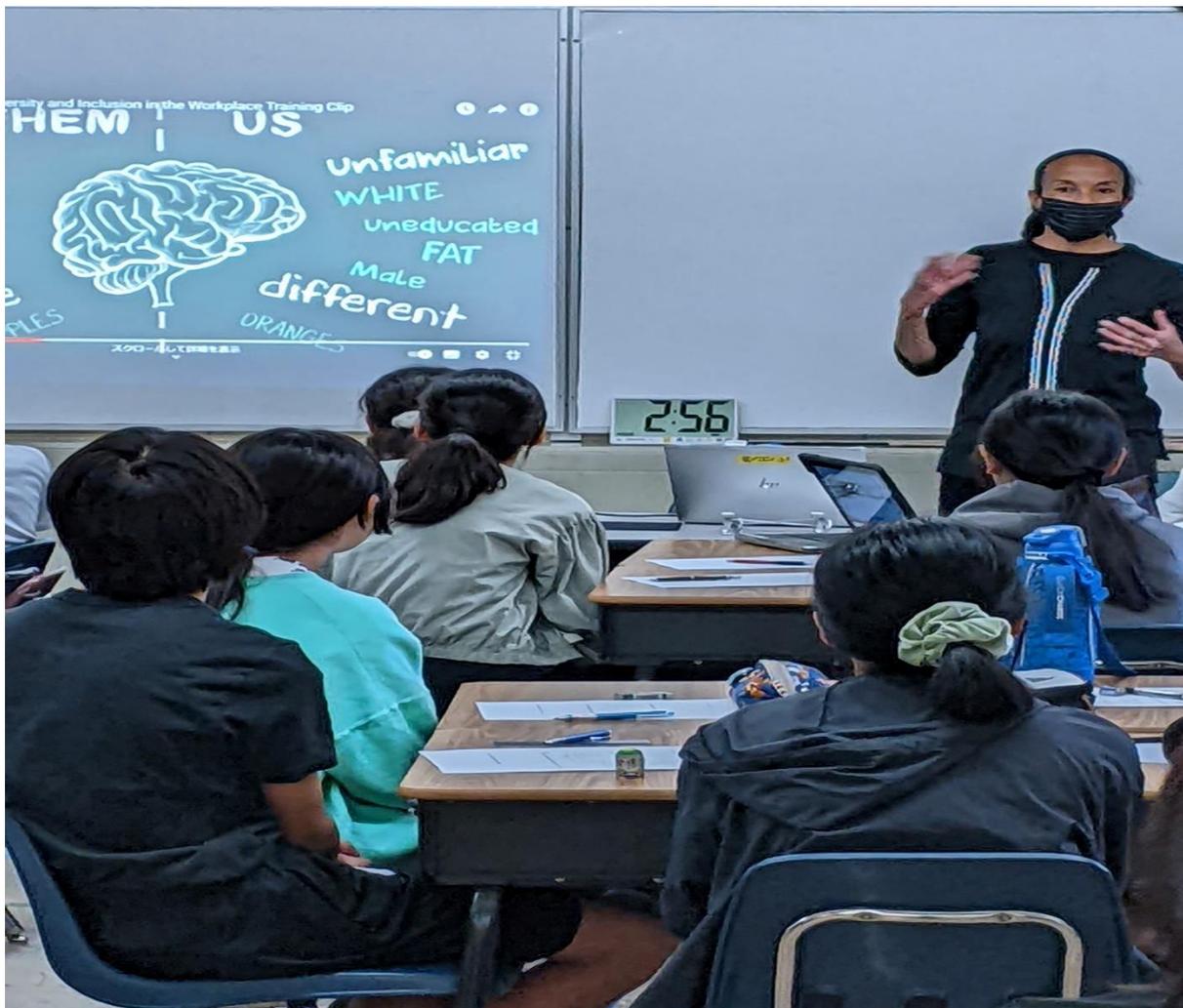
面白いと思うのは、こうした言葉を校内ではほとんど聞かないことです。時々、日本から転入してきた児童が言いますが、しばらくすると消えていきます。家庭環境、学校の環境、様々な要因があるはずですが、日本国内では小学生も中学生も常習化しているこうした言葉を口にしないのは、本校の児童生徒の心のおちつきを表しているように思います。

ちなみに、「いつもの」これは教室の後ろの黒板に明日の連絡を記入する欄によく見られた文字ですが、こうした学校の児童生徒は学力もありません。面倒なようですが、明日の学習内容や持ち物の連絡がしっかりしている学級では、授業に向かう姿勢もちがいます。黒板や掲示物を見ていると、子どもたちの成長が見えてきます。

## 中学部校外学習

5月17日（金）青空の下，中学部1・2年生はメトラに乗り，ダウンタウンでの班別校外学習に取り組みました。様々な施設を探究的な視点を持ちながら，視野を広げ，友情を深めた様子でした。

さらに中学部は5月30日（木）6時間目にハバード先生から，アメリカにおける人種差別をテーマにお話を聞きました。（すべて英語です）私たち大人が解決できない大きな社会問題を学び，取り組む姿勢はたいへん立派です。アメリカならではのよさが活かされています。他の日本人学校では学べない本校のすごさです。



## 南極からの手紙 ～ ネットのない時代に ～

30年前になりますが、当時、私はアジアの日本人学校にいました。

中学校社会科の授業の中で、「世界に手紙を出してみよう」という授業を行いました。今ではインターネットもあり、子どもでもスマホで何でも調べられ、人に近づくこともできますが、当時は夢のような時代でした。手紙を書き、送るのです。そうした中で、出てきたのが、以下の内容です。

- ・「アメリカ大統領に世界はなぜ平和にならないのか、聞いてみたい」
- ・「オーストラリアではコアラとどのように共存しているか、聞いてみたい」
- ・「広島では戦争をどのように語り継いでいるのか、市長さんに聞いてみたい」
- ・「シンガポールのような小国がなぜ経済力を持つのか、首相に聞いてみたい」
- ・「京都は古い街並みと発展をどのように進めるか、市長さんに聞いてみたい」
- ・「イギリスの皇室は今後存続できるのか、エリザベス女王に聞いてみたい」
- ・「東京が世界の都市になるにはどう考えているのか、知事さんに聞いてみたい」
- ・「国連が世界の平和をどうして守れないのか、事務総長に聞いてみたい」

他にも様々な疑問や質問を抱えた生徒たちがいました。この学習でさらに楽しかったのは、それではどこにいるだれにあてて郵送すればよいかをみなで考えた時でした。子どもなりに「こんな偉い人が相手にするわけないよ」「誰に聞くのが一番よい情報を得られるだろうか」などなど、現在の本校が取り組む探究的な学習の先駆的な取り組みをしていました。

国内でも帰国後やってみましたが、海外の日本人学校で学ぶ子どもとの興味関心や意識のちがいは非常に大きなものがありました。日本人学校の生徒たちは、世界を常に身近に感じているのかもしれない。日本国内の学校にいるとグローバル的な視野を持ち世界に目を向けるのは、そう簡単な事ではないようです。

この学習では驚くことに、ほとんど返信が届きました。もちろん、アメリカ大統領からは直筆のものは届きませんでした。ホワイトハウスの封筒に担当者のサインが直筆で書かれており、「大統領はあなたと同じく平和を望んでおり、そのために力を尽くします。世界の将来のためにあなたも学習を続けてください」との返事をいただき感激していました。この手紙は学級全体の子どもたちにも、影響を与えていました。さすがアメリカ大統領は、手紙ひとつで子どもたちの心を動かしてしまうのだと印象に残るものでした。他にも大統領府や首相官邸、王室、大使館、政府機関、都道府県知事や市町村長さんから多くの直筆のお手紙や貴重な資料が送られてきました。学習としては大成功でした。

ただし中にはがっかりするものもありました。シドニー日本人学校生徒会に手紙を出したところ、「私たちの学校は世界中からこのような手紙が毎日山のように届き、あなたの学校を相手にするひまはありません」とのひどい内容でした。国際学校として知られ、当時から英語で職員会議までしている（今でもそのようですが）学校が、このような心ない、殴り書きに近い文字で返信を寄こしたのは、はたして日本人学校とは何を学ぶ場所なのか、英語が話せるだけでは何にもならないことを生徒たちは感じていました。

こうしてとりあえずは、ポツリポツリと返信が届き、そこからさらに学習を深めた生徒もいました。この学習をきっかけに外交官や国連職員を目指すようになる

ところが、一人だけお返事が届かなかった生徒がいます。

「地球環境の変化を、南極にいる人はどう考えているのか聞いてみたい」

これには当初から南極には人は住んでおらず、住所もないと全員否定的でした。

ところが、ある生徒から、極地観測で南極には各国の研究者がいるとの案がでました。しかし、いずれにしても南極に住所はなく、常設の郵便局もありませんでした。当時の生徒たちはこのシカゴの生徒たちより、日本的な雰囲気の中学部ではありましたが、人数が多いただけ様々な発想もありました。

「そういえば、日本から南極観測隊が毎年出ているらしい」

「しらせと言う新造船になり、行き来しているようだ」

「管轄は文部科学省らしいから、日本人学校からならなんとかなるかも」

「担当課がわかったから、とりあえずそこに出してみたら？」

「一番難しい手紙になるかもね」

南極はどんな場所なのか、地球はどう変化しているのか、とりあえず、南極観測隊の隊長あてに書いて、日本人学校から日本の文部科学省あてに送りました。すると、ご丁寧に文部科学省からの返事がありました。さすが、頭のよい子どもたちです。読みが当たりました。それにはこう書いてありました。

「お手紙拝見いたしました。海外に学ぶみなさんがこのような地球規模での環境問題に興味や関心があり、お手紙まで頂けるとは思いませんでした。みなさんの貴重なお手紙は、この秋に出航する南極観測船しらせの艦長にお願いし、南極観測隊の隊長に届けます。約半年後だと考えておいてください」

1学期の授業でしたから、2学期末にはほぼすべての返信が届きました。

今も昔も日本人学校の生徒たちはその都度多くの出入りがあります。そして、中3の生徒たちも卒業していきました。「やっぱり、南極の手紙は無理があったよね」

当事者はさらに一足先の年末に帰国していきました。

私自身も忘れかけていたころでした。学習してから、ほぼ1年の時が過ぎていました。なんと、一枚の絵ハガキが南極から真夏の蒸し暑さが充満する学校に届いたので。裏側には青空の下に薄いブルーの色がかかる氷原地帯、まさしく南極大陸の光景でした。文面には南極観測越冬隊の隊長さんから、一言添えられていました。

40度を超す蒸し暑さの中で、一瞬冷やかな空気が確かに感じられました。本当に南極大陸から来た手紙かどうかの証明に、なんと南極観測隊昭和基地の郵便局のスタンプまで押されていました。あの時の感動は今でもあの一瞬の冷やかな感触とともに

覚えています。この絵ハガキはこのあと、何年も私の職員室の机の上に飾られることになりました。

あの生徒たちと共に感動を共有したかったのですが、全員が卒業してしまいました。当事者の生徒だけにはなんとか知らせたかったのですが、定住先の住所もわかりませんでした。途中で帰国したため、進学先の高校もわかりませんでした。つまり、一番の当事者に伝えることができませんでした。毎年、この時期が来ると、あの生徒はどうしているのだろうか、進学の時期、就職の時期、結婚や子どもを授かる（女生徒です）ころになると、もしかしたら、あの子の人生はあの絵ハガキで変わったかもしれないのに・・・と複雑な思いがする絵ハガキになってしまい、今では机の奥深くにしまわれるようになりました。あの当時中学生だった生徒も、

45歳を過ぎる年齢になり、きっとお子さんもいることでしょう。「お母さんは南極からハガキが届いたことがあるんだよ」と聞けば、その子の人生にも何らかの影響があったかとも思います。

ちなみに、生徒の手紙は、アジアの日本人学校から日本の文部科学省→自衛隊→しらせ艦長→南極観測隊→昭和基地→再びしらせへ→自衛隊→日本の文部科学省→アジアの亜熱帯にある日本人学校へと何か月もかけて行き来したようです。多くの方々のご厚意に本当にお世話になりました。こうした日本人学校での授業の取り組みは、やがては総合的な学習の時間の創設や現在の教科横断的な授業にもつながり社会科の教員として誇れる実践でした。しかし、教員人生に大きな悔いを残すことにもなりました。

## 6月～7月の予定 (大きな行事のみ)

6月9日(日) 全日校運動会 実施の場合は10日(月) 代休です

12日(水) 避難訓練 ロックダウン訓練

小学部個人面談開始 20日まで

13日(木) 小学部ワシントンDC 修学旅行説明会

21日(金) 小学部校外学習

25日(火) 海外子女教育振興財団主催 進学説明会

学校運営委員会

7月2日(火) 火災想定時 避難訓練

19日(金) 1学期終業式 3時間授業で12時下校です

### ◎登下校時のピックについて **ご注意を**

毎日の園児、児童生徒の送迎ありがとうございます。

最近気になるのは、時折、心配になる車の動きがありますので、次ページにあるルールをお守りいただくようお願いいたします。すべての子どもたちが安心して安全に登下校できるよう、ご協力をお願いします。バス・通学委員の保護者の皆様には前にご心配をいただき、ありがとうございました。たいへん助かります。

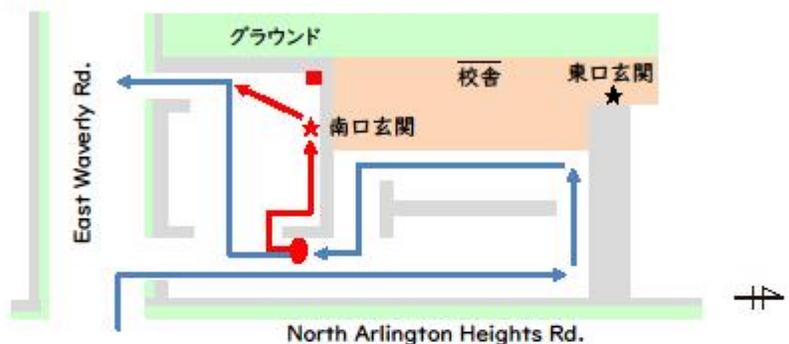
保護者各位

シカゴ双葉会日本人学校全日校 校長

## 本校駐車場ご利用時のお願い

本校では、保護者の皆様が駐車場をご利用される際に、児童生徒の安全確保のため、下記のようにお願いしております。ご理解、ご協力をお願いいたします。

1. 駐車場の通行は、図の青矢印のように一方通行となっております。



2. 登下校時の送迎ルールについて

### 【登校時】

4ルート全てのバスが学校に到着した後、決められた時間（「通学のおしり」参照）に、以下のルールにて児童生徒を降ろします。ネームプレートの提示は不要です。

### 【下校時】

ピックアップをする場合、事前に申請が必要（「通学のおしり」参照）。

4ルート全てのバスが定刻 15:30 に学校から発車した後、保護者は、以下のルールにて生徒をピックアップします。

対応する教員にネームプレートが見えるよう提示してください。※ ネームプレートは学校が配布します。

### 【ルール】

- ① 4ルート全てのバスが到着、発車するまでは、●印の位置に先頭車が停車し、後続車は先頭車に続いて、青矢印のとおり一方通行に従って停車する。教員の指示により南口玄関（★印）へ移動する。
- ② 前の車に続いて移動し、3台同時に乗降する。  
※ 晴天時で混雑している場合、教員の判断で5台まで乗降が可能。教員の指示に従う。
- ③ 車の右側ドアから乗降する。  
※ 左側ドアから降りる場合、保護者が先に車から出てドアを開け、玄関口へ児童生徒を誘導する。  
※ 左側ドアから乗る場合、保護者は児童生徒を迎えに行き、ドアを開け誘導する。
- ④ 乗降が終わった車は、前方車を追い越さずその場で待機し、前方車が走行を始めたなら、後続する。  
※ 教員が前方に立ち、追い越しを誘導した場合のみ、追い越し可能。  
※ 担任・教員と話す必要がある場合、前方車が走行を始めたなら後続し、■印の位置に移動し、停車する。

以上